

2024年度

実施効果報告レポート

【事業者名】
一般社団法人Fora

- 【サービス名】
- ①探究学習ワークブックvol.1
 - ②探究学習ワークブックvol.2
 - ③進路探索ガイドブック
 - ④キャリアゼミ
 - ⑤探究カリキュラム伴走サポート
 - ⑥単元開発サポート

【支援項目】
授業および授業準備（全サービス共通）

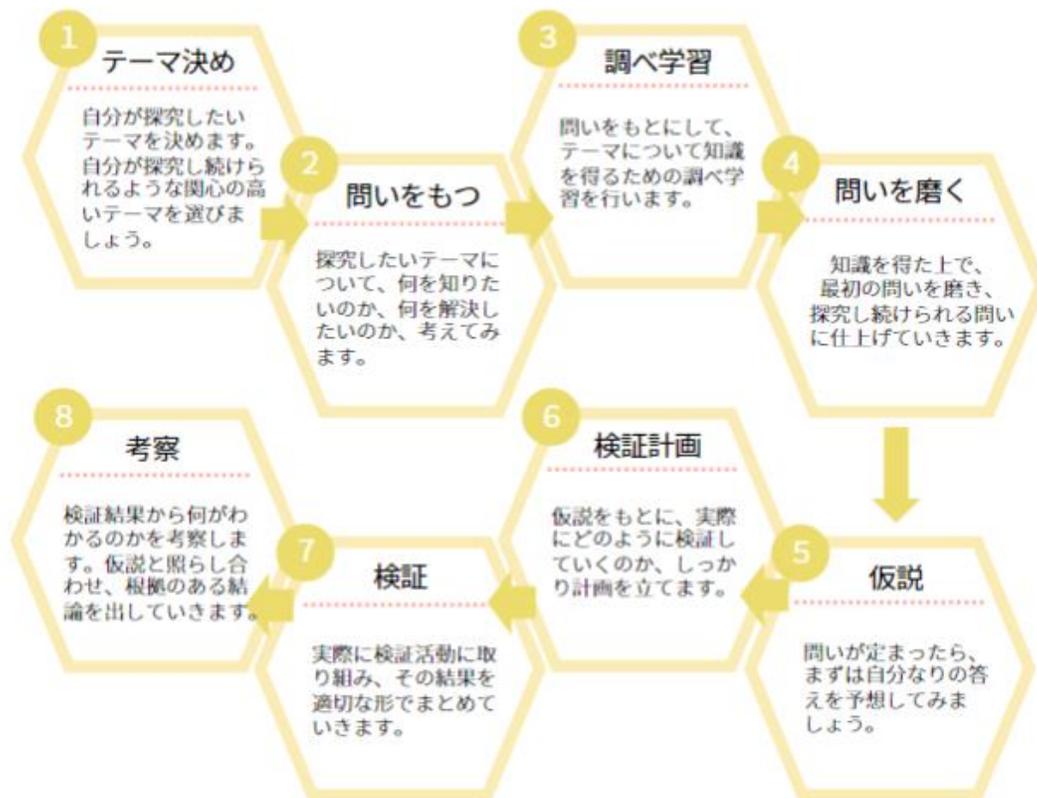


2025年1月

探究学習ワークブック

コンセプト：与えられたものでない、オリジナルの問いをつくる

探究学習の肝となる「問いづくり」に特化した教材です。
これまでの経験を丁寧に棚卸し、自分自身の生き方・在り方を
深く考えることを通して、より良い問いを作ることをサポートします。



- ・自分の生き方・在り方と結びつくような「問い」を作ることが難しい
- ・与えられた問いや課題を、なかなか“自分ごと”にすることができない

このような課題感をお持ちの方むけの教材・サービスです

●「わくわく」と「もやもや」を探究する 探究学習ワークブックvol.1

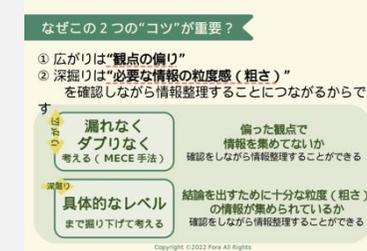
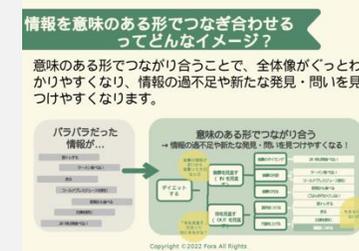


- 第1章 探究とは何か
- 第2章 探究基礎力を身につけよう
- 第3章 問いの種を見つけよう
- 第4章 問いを深めよう
- 第5章 問いを完成させよう

●仮説検証からまとめまで 探究学習ワークブックvol.2



- 第1章 これまでの探究学習をおさらいしよう
- 第2章 仮説をたてよう
- 第3章 検証方法について知ろう
- 第4章 探究の流れを整理し、検証をしよう
- 第5章 考察をしよう
- 第6章 まとめ・発表をしよう



補助ワークショップ用授業スライドの提供

進路探索ガイドブック

コンセプト：自分自身で納得感のある未来を創っていく

大学進学を目指す高校生が、学問への理解を段階的に深めながら、「何を、なぜ、どこで学ぶのか」を考えることをサポートします。



- ・そもそも学問とはどういうものなのか
- ・どのような比較観点を持って選択すればいいのか

このような課題感をお持ちの方むけの教材・サービスです

●探究から学問、そして進路選択へ 進路探索ガイドブック



- 第1章 進路選択の考え方
- 第2章 学問の特徴
- 第3章 学問の比較観点を知らう
- 第4章 学問を仮決めしよう
- 第5章 大学とは
- 第6章 大学入試にむけて



学問とは

新しい「知識」や「知恵」を創造すること

教科書で習う知識も、今日まで学問が生み出してきたもの

▶ 創造するためには、まずは先行研究を分析し、「すでにわかっていることは何か」を知る必要がある（そのために勉強は大事!）

学問の特徴

同じ対象でも、学問によって見方が違う

生徒（教育学）	現代人（歴史学）
未成年（法学）	ヒト（生物学）
消費者（経済学）	患者（医学・看護学）

自律的に取り組めるワークシート

補助ワークショップ用授業スライドの提供



キャリアゼミ（大学生による出張授業）

コンセプト：「仮決め」・・・仮でもいいので、決めてみて行動してみる

情報を集め、選び、体験し、振り返り、また選ぶ。その過程を通じて、自分が納得できる進路選択へのサポートをします。
多様な価値観の人々とのコミュニケーションは、進路選択の場面で必要な考え方を知る、モチベーションアップにつながるなど、多くの効果が期待できます。所要時間は、事前事後学習を含む3コマ～（150分程度）です。

「学問ごとの違いや魅力について、より具体的に理解したい」
「進路選択の決め手を、大学生の経験を通じて学びたい」
このような課題感をお持ちの方むけの教材・サービスです

●スタートダッシュ授業

大会場の壁一面に散りばめられた「学問分野クイズ」を解きながら、幅広く学部のエッセンスに触れられる授業です



●学部お試し体験授業

表面的には見えない学問の面白さや奥深さを、高校生にとって身近な題材を通して学べる体験型ワークショップ授業です

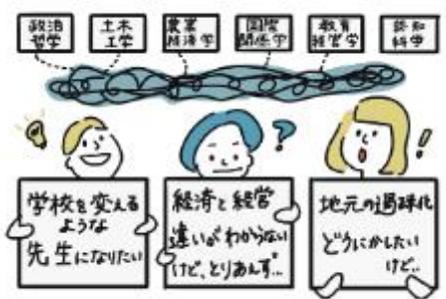


●ストーリーテリング授業

学問分野の概要ではなく、実際に学んでいる大学生が自身の経験を語ることで、イメージを醸成し、進学先への理解を深める授業形式です



15 たぐっちゃん 栽培学・土壌生態学
16 モッチー 法制史
17 ゆうひ 電子情報学
18 むらちゃん 教育史・教育哲学
19 なかしま マテリアル工学
20 しよーじ 材料力学
21 はやた 経済学・産業心理学



✓キャリアゼミ紹介動画

こちらのQRコードから、キャリアゼミの紹介動画をご覧ください。キャリアゼミの目的や効果、それぞれのプログラムについてご説明していますので、ぜひご覧ください



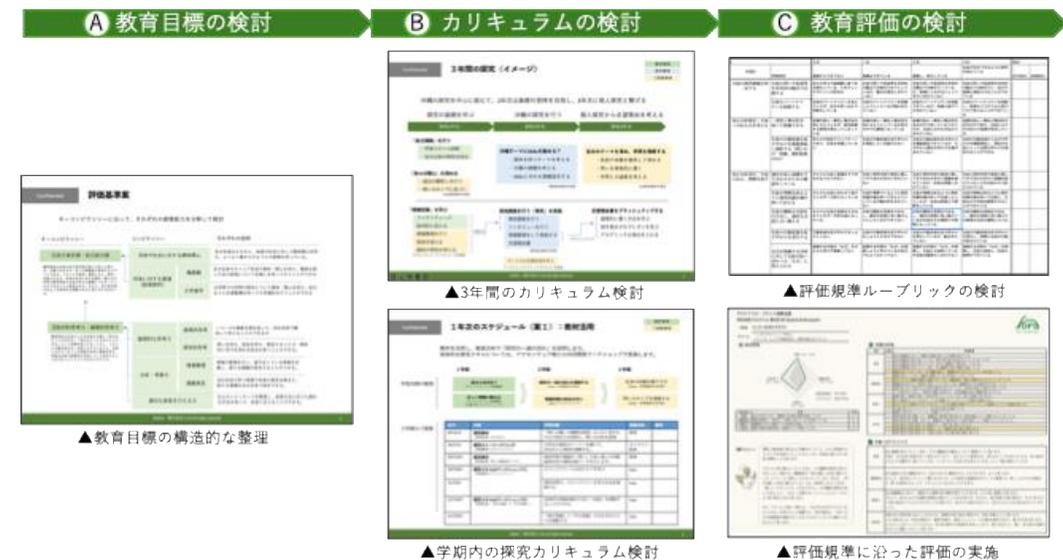
ストーリーテリングトーク内容紹介

<https://vimeo.com/686524924/f129ac1369>

探究カリキュラム伴走サポート

コンセプト：学校独自の探究を目指し、伴走支援を行う

総合的な探究の時間が、各学校の教育目標や生徒たちに沿ったものとなるために、教育目標や探究カリキュラムの検討を伴走型で行います。目指したい方向性のヒアリングからたたき台を作成して、議論を重ねることで、目指したい姿に近づけていくためのサポートを行います。



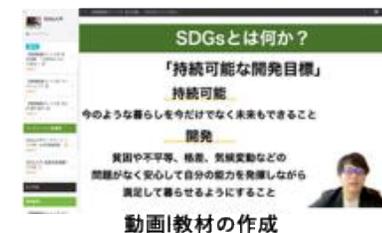
単元開発サポート

コンセプト：授業づくり/授業実施のサポート

カリキュラム方針に基づき、単元開発をサポートします。授業スライドやワークシート案、指導案や研修等も含めて実際の単元開発を行い、授業準備の工数を削減し、ブラッシュアップの過程を通じて探究の時間をより充実させるサポートを行います。



授業を繋ぐ一部のコンテンツ開発



補足的な動画教材の作成

導入実績

8都道府県、10校が導入実証に参加

働き方改革支援補助金2024では、全国10校、生徒3,001名を対象に実施しました。また探究学習ワークブックvol.1 7校、探究学習ワークブックvol.2 7校、進路探索ガイドブック8校、キャリアゼミ2校、探究カリキュラム伴走サポート9校、単元開発サポート4校とすべてのサービス導入をいただきました。



導入先学校数10校

導入実証参加者数3,001名

探究学習ワークブックvol.1 7校

探究学習ワークブックvol.2 7校

進路探索ガイドブック 8校

キャリアゼミ2校

探究カリキュラム伴走サポート9校

単元開発サポート4校

導入事例1 | 茨城県立結城第二高等学校

サービス：探究学習ワークブックvol.1, vol.2、キャリアゼミ、探究カリキュラム伴走サポート

【導入背景】

普通科全日制のみならず、夜間定時制についても合わせてカリキュラム検討をしている学校であり、生徒一人ひとりが自分なりの探究テーマを持ち、進めていくような時間を模索していた。一方で、日頃の業務の合間を含めカリキュラムや教材開発を行うことが必要であり、その点で導入となった。



茨城県立結城第二高等学校ホームページより

【導入前】

担当者の当該業務にかかる時間 1日1時間

導入事例2 | 東京都立大泉高校/大泉高校附属中学校

サービス：進路探索ガイドブック、探究カリキュラム伴走サポート、単元開発サポート

【導入背景】

従来より探究学習に力を入れている学校であり、その取り組みを一段と高めるために導入をいただいた。特に、探究を学問的に捉えていく観点や、中高一貫校の強みを活かしたカリキュラムのブラッシュアップに力を入れており、それをさらに高めたいとの希望があった。一方、そのためのカリキュラム検討や教材開発に時間をかけており、その点で導入を行うこととなった。



東京都立大泉高等学校・附属中学校ホームページより

【導入前】

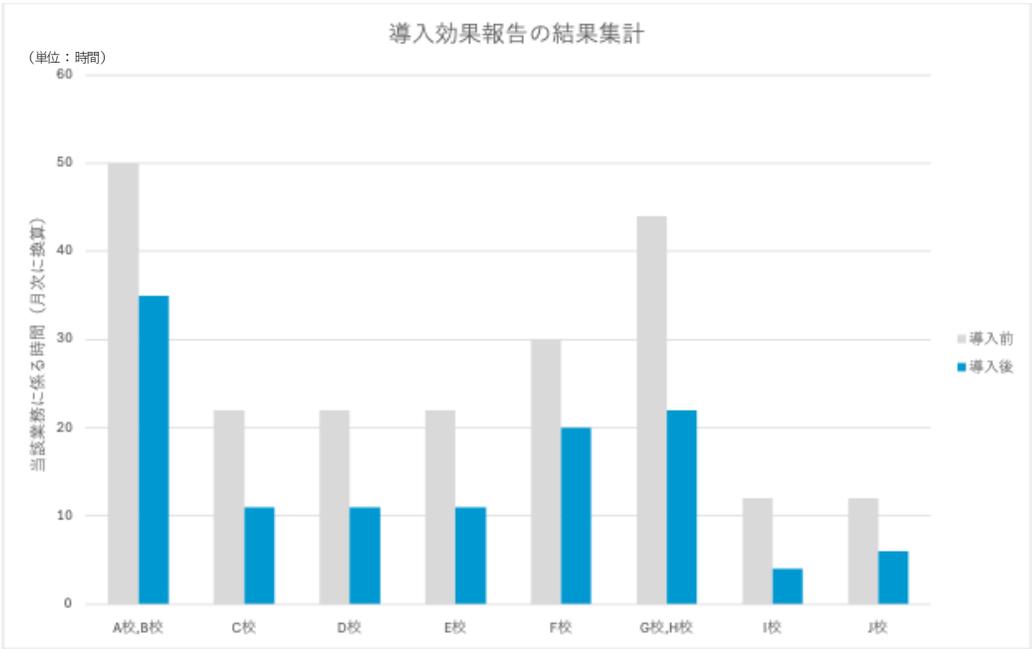
担当者の当該業務にかかる時間 50時間/月

学校活動支援サービス導入による成果

全体的な成果

導入された学校すべてで、当該業務時間の削減に繋がった。

2024年12月～2025年1月に実施した導入効果報告のアンケート調査では、全導入校（10校）からの回答を得て、すべての学校で業務時間の削減が確認された。探究学習にかかる授業準備時間の削減が確認された。多くの学校では、10時間/月程度の業務削減が見られたほか、一部の学校では全体の業務時間の50%以上が削減された。



導入効果報告の調査結果をもとに、一般社団法人 ForA にて集計

※調査における毎日の業務については、その時間に22を掛け合わせて集計。
※中高一貫校で同一担当者から回答を得た場合は、統合して調査結果に反映

事例分析 1 | 茨城県立結城第二高等学校

サービス：探究学習ワークブックvol.1,vol.2、キャリアゼミ、探究カリキュラム伴走サポート

【支援内容】
初回打ち合わせにて、授業コマ数の確認、学校行事等の確認に加え、教材活用時の全日制カリキュラムと定時制のカリキュラムを同時検討しつつ、キャリアゼミの実施日程を調整。年間計画を早期に見据えた上での支援を開始できたため、全体的な工数削減に繋がった。

【導入効果】担当者の当該業務にかかる時間
1時間/日 → 0.5時間/日

検討したカリキュラム

事例分析 2 | 東京都立大泉高校/大泉高校附属中学校

サービス：進路探索ガイドブック、探究カリキュラム伴走サポート、単元開発サポート

【導入背景】
比較的時間がとりにやすい土曜日に集中的な検討会を実施。現状のカリキュラム整理に加え、改善の方向性の前提となる学校戦略の擦り合わせや、社会課題解決や学問探究を目指すために必要なフレームワーク等の認識を整理。今後の検討すべき論点整理を行った結果、総合的な時間の削減に繋がった。

【導入効果】
担当者の当該業務にかかる時間
50時間/月 → 35時間/月



検討会の様子

サービス導入にあたっての課題とその改善策

課題

「サービス導入提案」と「サービス導入決定後」に、それぞれ大きなリスクがあり、その回避やヘッジが求められることが明らかになった。

導入時

交付リスク

対象サービスが「授業」の場合、リスクヘッジが必要不可欠。

補助金の性質上、申請されたもののすべてが交付されるわけではない一方で、対象サービスが「授業」の場合には、交付見送りになった場合の影響度が大きい。その点、交付が見送りになるリスクに対し、先生方の心配の声が寄せられた。

そのような状況の中で、リスクを回避するために導入を見送る学校もあった一方、導入を進める学校では、交付されなかった場合のリスクを最小限に抑えるための対策を求める声があった。

導入前

公立高校における教育委員会担当者との接続

教育委員会への標準フローが不明瞭なため、学校教員、事業者ともに試行錯誤を行い、教育委員会側にも負担を掛けていた可能性。

学校設置者（教育委員会）に確認を行う際に、学校担当者から管理職を通して教育委員会に起案を行うのと合わせ、それとは別に事業者からコンタクトを取り複数校の情報を取りまとめて提出した。

その過程で、学校側の申請スケジュールに対する不安感、教育委員会側の負担感や不満感、事業者側の手探り感があり、負担を増やしていた可能性が考えられる。

打ち手

課題への対応策は、①事業者の自助努力によるものと、②補助金制度の改善によって解決が期待されるものに整理した。

事業者が行う打ち手

【本年度の対応】

- ・提案段階で、①交付決定時と②交付見送り時の2つのシナリオを提案し、どちらになるかで支援内容を切り替える提案をした。
- ・交付見送りになった学校でも、見送りシナリオとして営業費用として実施した。

【今後の打ち手】

- ・事業者としては引き受けるべき事業リスクであるため、見送り時シナリオを用意しておくことが望ましい。

制度改善への期待

【制度改善】

- ・予算執行等の制約がありつつも、導入可否の大きなサービス（授業支援等）については、可能な限り早期の事業者採択、交付決定が望ましい。

【運用改善】

- ・見送り可能性がある旨の周知、交付率の公表があると予見可能性が高まり、学校/事業者ともに期待値調整が可能になるため、利活用の促進に繋がるのではないか。

【本年度の対応】

- ・学校担当者から学校管理職に起案され、そこから教育委員会に起案され、その後、事業者側から教育委員会にコンタクトを取り、必要資料を添付した。

【今後の打ち手】

- ・提案時から標準的な流れを示しつつ、可能な限り早期に関係者とコンタクトを依頼して円滑な提案ができるように努める。

【制度改善】

- ・高等学校の「総合的な探究の時間」で利用する教材を受益者負担で購入する場合の決裁者は、学校長であることも少なくない。そのため一律で設置者確認にするのではなく、学校種や支援項目ごとの実態に合わせた一部要件の緩和が期待される。

【運用改善】

- ・標準的な確認起案ルートの提示されると、関係者の円滑な確認に繋がりうる。

サービス導入にあたっての課題とその改善策

課題

「サービス導入提案」と「サービス導入決定後」に、それぞれ大きなリスクがあり、その回避やヘッジが求められることが明らかになった。

導入後

カリキュラム支援におけるスコープ拡張のリスク

カリキュラム伴走支援では、そのさらに上流工程に関わる可能性があるため、支援スコープが拡張するリスクがある。

カリキュラム支援を行う段階では、主としてカリキュラム見直しや具体的な単元開発に進むことも少なくないが、その性質上、上流工程としての学校教育目標の検討や、その学校が他の学校と比較してなにを目指すかなどの学校戦略とも重なり、その擦り合わせ等が必要になることもある。

そのような状況の中で、伴走支援の一環として、学校経営目標等にも関わることや学校開発等に向けた研修等を行うこともあった。

打ち手

課題への対応策は、①事業者の自助努力によるものと、②補助金制度の改善によって解決が期待されるものに整理した。

【本年度の対応】

- ・各学校の上流工程等については、事業リスクとして柔軟に対応。
- ・教員研修等のニーズに対しても、必要に応じて対応を実施。

【今後の打ち手】

- ・リスク分を価格上乘せするのではなく、提案段階での支援スコープの精緻化を行うことを目指すことが望ましい。
- ・上流工程にも対応できるような社内体制を構築することが望ましい。

【制度改善】

- ・特になし

【運用改善】

- ・特になし

生徒コメント

生徒が利用したワークブックやキャリアゼミでは、学習用教材の意義と、非日常的な活動の意義がそれぞれ現れた。双方の強み等を活かし合うことが重要であることが示唆される。

ワークブックに寄せられた声（抜粋）

授業中の利用のみならず、探究的な学びを自ら深めていく上での利活用の声が寄せられ、探究を自立的に進めていく上での教材の意義が示唆される。

私は、探究でつまづいたときにグラフ系がアイデアを思い起こさせる鍵でした。今でもいろんな面でつまづいたときにグラフに自由に書き出すことで解消されることがあります

探究を行う過程で、先生にいろいろ相談していたので、このワークブックのような内容があったらもっと効率よく研究を進められていたんだろうと思う

身近な人以外の研究内容を見たり聞いたりする機会は少ないので、ワークブックに書いてあるのは面白くて良いなと思いました。

キャリアゼミに寄せられた声（抜粋）

授業中の非日常的な出会いに集中して取り組むことによって、進路に対する具体的なイメージや動機づけ、非認知能力の重要性を気付く機会であることが示唆される。

大学生が先生なので、実際に大学で勉強している話を聞くことができ、1年生でも大学でどのようなことを学ぶのかイメージしやすかったと思う

どれだけ失敗しても失敗した先に様々な道が広がっているということを知れた

教職員コメント

伴走相手の教職員にとって行うべきことの整理や、今後の取り組みを整理する時間になると同時に、その過程を通して知り合う他の先生方にも探究的な学びの在り方の共通認識が浸透していくことが示唆された。

担当者への伴走に寄せられた声（抜粋）

積極的に探究を推進されている先生方については、先生ご自身で悩まれていることも少なくない。そのため聞き手となり、ディスカッションの相手となることで、今後の方向性を一緒に考えていくような役割が大切ではないかと示唆される。

①学問とプロジェクト学習を連動させるような探究のあり方の難しさ、②業務に忙殺されており、指導内容を細かく詳しく言語化体系化できていない歯痒さ、③アクション編のガイドブックに載せるフレームワークの精選などがあり、ディスカッションをしたい

（上記MTG終了後に）（Fora担当者）さんに聴いていただき、課題やすべきことがクリアになりました。本当にありがとうございます。

担当者以外の教員から寄せられた声（抜粋）

探究カリキュラム伴走や単元支援を行うなかで、他の学校教員からも意見交換等の機会をいただき、生徒の探究推進を行う上での考え方の共通理解が少しずつ浸透していることが示唆される。

探究においても、生徒をもっと（形成的に）評価しながら進めなければと思いました。つつい『指導』してしまう可能性がある

互いに生徒とアドバイザーという立場になり、問題点から課題を見つけ、どのようにすれば問題を解決できるのかを導くことができるかを考え、ティーチングとは違うことがよくわかった



法人名（商号）	一般社団法人Fora
設立年月日 （事業年度）	2016年4月1日 3月から翌年2月末まで
所在地 （登記用住所）	東京都中央区日本橋室町1-13-1 DKノア4F 東京都中央区東日本橋2丁目28番4号日本橋CETビル2階
代表者	藤村 琢己
役員体制	代表理事1名、業務執行理事2名、非常勤理事3名、監事2名
顧問	顧問税理士 BlueWorks Group代表取締役 俣野 和仁 顧問弁護士 法律事務所BlueWorksLaw 代表弁護士 大山 哲幸
従業員	業務執行理事3名 職員 4名、業務委託20名、インターン生3名
連絡先	電話番号 03-6822-4100 FAX番号 03-6856-2861 Mail info@fora.or.jp